

# 平成29年度版 多忙化改善計画

No	項目	現状と課題	H30年度に目指すべき状態	①H29年度に実施する内容 ②H30年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	本校はSSH指定校であり、長年行っている交換留学に関する委員会もあるなど、会議が多く、行事予定に空白が少ない状態である。 職員会議はなるべく説明を端的にしているため、各自が自分の責任で会議資料に目を通す習慣がある。	やむを得ない場合を除き、行事予定表に、週1回程度は空白があるように会議を配置する。 各会議が必要な回数、必要な人員で行われ、予定時刻どおりに終わるようにする。	① 検討事項が少ない場合は、2つの委員会を重ねて1日で済ませる。 年間行事予定にある会議でも、不要と判断した場合は月間行事予定の段階で削減を検討する。 会議では、これまで同様必要以上に細かい説明は避け、予定時刻に終了するよう運営する。 ② 会議の回数について、各回の必要性を検証しながら減らす方向で検討する。 委員が宛て職で構成されている会議が多いので、出席者を絞る方向で検討する。	
2	学校行事の負担軽減	既存の行事に加え、学校説明会や広報活動など生徒募集に関する行事が増えている。また、本校の特徴として、同窓会関係の行事も多い。 新入生オリエンテーションや強歩大会など伝統的な行事は生徒への教育効果も大きい。 平成29年度は土曜日に行事を行う事が多く、代休日も直近でないため、負担感が増した。	強歩大会など大きな行事では、引き続きPTAや同窓会の協力を仰ぎながら効率的な運営を心がける。 行事をバランスを見ながら配置すると共に、休息が適切にとれるような行事予定を策定する。	① 行事ごとに労力と教育効果を検討し、必要性を検証していく。 アンケートを取った場合は結果を職員会議等で報告させ、日の高いうちに改善計画を策定する。 ② 行事予定を作る段階で、なるべく負担感の少ないものにしていく。 やむを得ず休日に行事を打つ場合は、代休の設定を直近とする。	
3	校内組織の見直し	定員の1クラス減により教員定数が減る中で、分掌の統合を進めてきた。平成28年度は委員会が16、分掌は9であった。部活動は男女併せて運動部が24、文化部が17と以前とほぼ変わっていない。 部活動の副顧問は複数の部を兼任する状態である。	分掌や委員会の整理や構成員の見直し、部活動の精選や顧問配置の工夫等により、職員の数に応じた校内体制を構築する。	① 平成29年度から委員会を2つ減らし、14委員会とする。 学校の課題を検討する「企画戦略会議」で、多忙化の解消に向け積極的に議論する。 ② 分掌や委員会等の整理、会議の回数の削減について引き続き検討する。前年踏襲で検証されずに残っている業務を洗い出し、目的が達成されたものや時代にそぐわないものは、積極的に縮小或いは削減を検討する。 部活動については部員数の推移を見ながら、将来的に存続が難しい部を見極める。	
4	業務の効率化	熱心な教員が多く、平日は8時以降まで残る職員もいる。また、土曜日や日曜日にも自主的に出勤して業務に当たる姿がある。 クラス経営や学習指導に関して個人の持つノウハウが学年や教科で共有されず、担当毎に頑張ろうとしている現状がある。	教員間の情報公開を進めて協働性を高めたり、ICTを積極活用することで作業効率を上げ、年度初めや年度末、大きな行事前などの特殊な期間を除き、平日は、遅くも8時を目処に最終退校できるようにする。	① 会議資料や提出文書等の電子化（ペーパーレス化）を進め、印刷や配布、回収等に掛かる労力を削減する。 紙資料や電子ファイルの格納は、後で確認しやすいように整理を心がけ、検索や引継ぎに掛かる労力の削減を図る。 面談等を通じ職員の勤務状況や要望を管理職が把握する。 ② 個人の持つ教材やクラス経営のノウハウ等の公開により職員の協働性を高めると共に、デジタル教材の積極活用を進め、教材作成等に掛かる時間を短縮する。	
5	部活動の負担軽減	文武両道を教育方針としており、部活動が盛んな学校である。強化指定部を5つ抱えており、強い弱いに関係なく学校全体に部活を頑張る空気があるため、顧問の指導にも力が入る。 一方で、従来より毎週月曜日は部活動を休む日として定着している。平日の下校時刻も最終7時半を徹底している。	引き続き、月曜日の部休日を継続すると共に、オフシーズンの土日の片方休みを実現していく。 平日4時間家庭学習2時間練習を実現すべく、短時間で効率的な練習を心がけ、競技レベルを落とさずに生徒及び顧問の時間を確保する。	① 「きずなの日」には勇気を持って部活動を休むことを徹底し、早期退校することを呼びかける。 主顧問と副顧問、外部指導者の連携により、休日練習の指導監督業務のシェアを図る。 ② 現在の生徒の最終下校時刻は7時半だが、本校の合い言葉である4-2体制（4時間勉強2時間練習）を目標に、活動にメリハリを付け、試合期以外は6時半活動終了を心がけ、原則7時最終下校とできるような体制を整える。	
6	地域人材の活用	既に部活動においては外部コーチとして、本校のOBを積極活用している。また SSHの事業についても、積極的に地域の施設や人材を活用し、効果を上げている。ただ、連絡調整等には手間を要する。 強歩大会では、PTAの積極的な協力を得ている。	引き続き、保護者や同窓会、地域の人材の力を有効に活用し、職員の負担軽減を図る。	① 引き続きPTAや同窓会との連携を密にすることで、協力が得られやすい雰囲気を作っていく。 ② 外部指導者との連絡調整が部顧問の過重負担にならないよう、分掌や管理職が関わっていく。	
7	ICTの積極活用	家庭学習時間の管理や小テストの得点管理、提出物の管理等担任や教科担任が担う事務量が多い。	ICTを積極的に活用し、生徒個々のデータを担任がまとめる作業をできる限り削減するなど、教員の事務負担を軽減し、生徒と関わる時間を増やす。	① 1、2年生にICT教材を導入し、家庭学習時間の報告等をWEB上で行うことで、担任が一覧にまとめる手間を省く。 ② 将来の校内LANの整備を念頭に、まずは教員がICTを使いこなせるように研修を積む。	